

地域支援だより

きらりNet

令和6年9月11日

第142号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

病弱教育サポートセンターきらり☆

「病弱教育サポートセンターきらり☆（以下、サポセン）」が本校に設置されて5年目になります。サポセンの業務内容の中でも大きな役割を担っているのが、小学校、中学校、高等学校に在籍している「入院児童生徒への相談支援・学習支援」です。在籍校や主治医からの依頼を受け、秋田市内の小児科入院病棟のある4つの病院と医療療育センターを訪問し、入院児童生徒への支援を行っています。支援内容は、大きく分けて4つです。

相談支援

本人や保護者から入院中の不安などを聞き取り、ニーズに合わせた支援内容を検討、提案します。

心理面の支援

制作やゲーム等、心身を解放できる活動を提供し心理面のサポートをします。

学習支援

在籍校の授業や行事等にオンラインで参加するための連絡調整や機器の接続の他、自学のサポートをします。

復学支援

退院後、スムーズに学校に戻れるように医療と連携し、在籍校への引き継ぎをします。必要な場合は支援会議を行います。

<今年度4～8月の学習支援の実績>

	人数	回数	病名
A 病院	2	8	先天性代謝異常、その他
B 病院	1	3	その他
C 病院	7	22	膠原病、腎疾患、精神疾患、等
D 病院	3	23	血液疾患、心身症、精神疾患
E 病院	19	195	消化器疾患、炎症性疾患、呼吸器疾患、糖尿病、等



(文責：小林佐知子)

幼児教室

「きらり☆ひろば」



入院児への支援として、中通病院小児科に入院している幼児を対象に、幼児教室「きらり☆ひろば」を実施しています。月3回、病室を訪問し、ベッドサイドで歌や手遊び・絵本の読み聞かせ・季節の制作等の活動を行います。

不安を抱えながら病院内で過ごす子どもが、少しでも安心して遊べる時間になるよう、病棟保育士と連携して活動を進めています。

保護者の声

「病院に来て初めて笑った」「時間を持て余していたので、遊べる時間があってよかった」

(文責：高橋葉月)

サポートルーム☆きらりでのひとこま

『サポートルーム☆きらり』は、秋田大学医学部附属病院に入院する小学生、中学生、高校生が不安を軽減できる場所、学校とのつながりを感じられる場所として小児科病棟に設置されました。今回は、5月13日に開室してからこれまでの様子を御紹介いたします。

オンライン授業

各校でICT活用が進み、入院中や自宅療養中もオンライン授業を実施する学校が増えてきました。



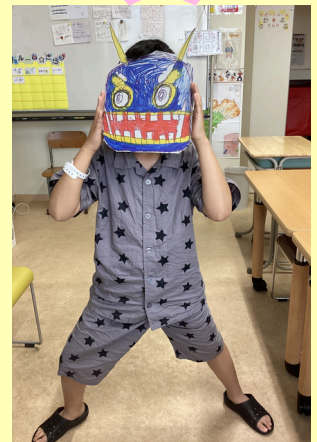
離れていても、友達や先生と話すことで子どもたちの表情は輝きを取り戻します。「早く学校に戻りたい！」と治療に前向きになる効果もあります。

制作活動

在籍校から出された課題やオンライン授業の他、好きなことに存分に取り組む時間も大事にしています。

夢中になって制作し、完成品で遊んだり、病棟スタッフに見せに行ったりと、子どもらしい一面が見られます。

泣く子は
いねがあ!



遊びを通して

病室ではカーテンを閉めた状態の子どもたち。同じ病室でも、サポートルームに来て初めて言葉を交わすことも少なくありません。一緒に遊ぶ中で好きなアニメや使っている文房具が一緒だということに気付き、あっという間に仲良くなるなど、同年齢の友達と関わる貴重な時間になっています。住んでいるところも学年も病室も異なりますが、同じ時期に入院し、様々な不安や我慢を共有することで、互いに励まし合い、本来の無邪気さや朗らかさを取り戻していきます。



PLEASE CONTACT
ME ANYTIME!

秋田きらり支援学校
地域支援部



教育専門監のつぶやき

入院中の子どもたちと関わる上で心掛けていることは、「心の声に耳を傾ける」ということです。「学校のことは気にせず治療に専念してね。」などの気遣いの言葉が、時に子どもの疎外感や喪失感につながっている場合があります。

サポートルームでは、子どものふとした表情やつぶやきから「心の声」に想いをはせ、患者から子どもに戻れる時間の提供をしていきます。